

『第4回新しい資本主義実現会議』発言メモ

東京大学 柳川範之

- ・企業間の連携によって内部化できる可能性があるなど、外部性の存在自体が、ただちに政策介入の正当化に結びつくわけではない点には注意が必要。
- ・ただし、先端分野における基礎研究に近い研究開発投資は、過少投資になりがちであり、大学や研究機関内の組織のあり方を含め、適切な政策を考える余地がある。
- ・国がすべてを担うのではなく、民間を主役としたうえで、必要な制度整備等で国が何を補う必要があるのか、産学の適切な連携を促すためには、どのような政策、どのような制度整備が必要かを重点的に議論すべきではないか。
- ・特に国が研究資金を投入する場合には、総額の議論だけではなく、どこにどのように資金を投入するかという質の管理が重要になる。
- ・今回具体的に挙げられている分野は特に、基礎研究開発が急速な実用化に結びつきやすい分野であり、産業界を巻き込み、適切な産学官連携を通じて、研究開発をリードしていく体制が必要。
- ・積極的な失敗を許容し、長期視点に立った研究者人材の育成が必要。
- ・若い研究者の選抜・支援プログラムにおいては、内外の優れた人材による評価を活用すべきではないか。
- ・優れた研究開発は、国内で閉じて行われるものではなく、グローバルな人材交流や研究交流の中から行われるもの。安全保障上の対処は適切に行いつつも、海外からも積極的に優秀な人材を集め、国内拠点で研究を推進してもらうことも重要ではないか。